

情 報 公 開 文 書

研究の名称	開放隅角緑内障に対するスーチャートラベクロトミー眼内法とマイクロフックトラベクロトミー眼内法の手術成績の比較検討
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院 眼科 林 篤志
研究の概要	【研究対象者】 富山大学附属病院で開放隅角緑内障と診断されマイクロフックトラベクロトミーかスーチャートラベクロトミー手術が施行され、術後少なくとも 12 カ月経過観察できた患者さん 【研究の目的・意義】 線維柱帯切開術は開放隅角緑内障に対し有効な眼圧下降が得られます。特に眼内法は結膜の切開を必要とせず追加のろ過手術が容易といった利点があり、従来の結膜切開を必要とするトラベクロトミーよりも近年より多く実施されています。眼内法のロトミーにはいくつか方法があり、代表的な方法としてマイクロフックを用いて線維柱帯を切開する方法（以下マイクロフックトラベクロトミー）とナイロン糸をシュレム管に挿入して線維柱帯切開する方法（以下スーチャートラベクロトミー）があります。今までの報告ではこれらの方法の手術成功率は差はなかったとされていますが、眼圧はスーチャートラベクロトミーの方が下がったとされています。当院では 2022 年 2 月より今まで行っていたマイクロフックトラベクロトミーに加えスーチャートラベクロトミーも施行しておりますが、どちらの方法がより眼圧下降に対し効果的かどうかはいまだ不明な部分が残っています。 スーチャートラベクロトミー眼内法とマイクロフックトラベクロトミー眼内法の手術成績を比較検討することで今後同じ手術を受ける患者に対してどちらの術式がより効果的かを説明する根拠となります。 【研究の方法】 診療録による後ろ向きの調査を行い、術後 12 カ月後の手術成功率、視力、眼圧、点眼スコアを調査いたします。 【研究期間】 実施許可日 ～ 2025 年 3 月 31 日 【研究結果の公表の方法】 論文掲載を予定しています。
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	主要評価項目：術後 12 カ月後の手術成功率 副次的評価項目：視力、眼圧、点眼スコア 他機関への情報の提供：無
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び	病院長 林 篤志

施設責任者氏名	
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	研究責任者：富山大学附属病院 眼科 教授 林 篤志
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。 電話 眼科医局 076-434-7363 FAX 076-434-5037 E-mail otsuka@med.u-toyama.ac.jp 担当者所属・氏名 富山大学附属病院眼科 大塚光哉 研究対象者等からの相談窓口 電話対応